

出血大サービス

家計を預かる主婦にとって「出血大サービス」はありがたいものです。でも、からだからの出血が止まらなくなったら大変です。止血（しけつ）の作業を一所懸命行っている主役は、「血小板」といってその名のとおり血液中では一番小さい細胞です。

止血という大役には大きい方が効率と思いますが、実は小さいなりの理由があるのです。血管の中の流れは中央部が速く、端に行くほど流れが遅くなります。大きい細胞（赤血球や白血球）は、中央部を移動しますが、小さい細胞すなわち血小板は血管壁に沿って流れるので血管の破れに早く気付くことができ、止血するためには都合のよい大きさとなっているのです。

